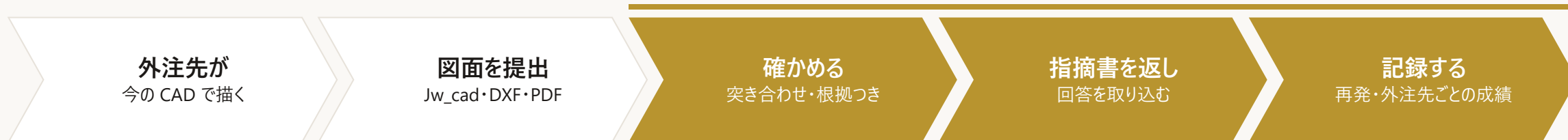


Insight Home Design 外注図面のチェックと指摘の管理

図面を描くのは、今お使いの CAD のまま。
届いた図面を「**確かめて、直させて、記録する**」道具です。

Insight Home Design の受け持ち



この資料で示すこと

困りごと・強み p.2～3

1 日の流れ p.4～7

間取りプランの下書き
p.8～9

会社の決まり・員数表・
多言語 p.10～11

導入と試用 p.12

設計部のいまの困りごと — 何が変わるか

作図の手順は変えず、届いたあとの「**確かめる・返す・追いかける**」を軽くします。

いま

外注図面のチェックに時間がかかる

平面図・基礎伏図・面積表・立面図・矩計図を目で見比べる



Insight Home Design で

図面どうしを突き合わせ、指摘を**根拠**と**計算過程**つきで一覧に。
迷うものは「要確認」に分けます

PDF だけの提出・海外の外注先

CAD のデータが届かない。言葉が違う



PDF のまま読みます（Jw_cad・DXF も）。
画面と指摘書は中国語・ベトナム語にも

指摘と回答の行き来

赤入れ・メール・前回の図面との見比べ



指摘書 PDF と回答欄付きの Excel を返し、回答を取り込みます。
再提出を「今回の新規・前回から継続・回答後も残る・解消後に再発」に仕分けます

間取りプランの下書き

敷地ごとに描き起こす。何を前提にしたかが図面から読めない



会社の型で下書きを作ります。
前提（読めた事実・仮定・要確認）と**直す所**を、図面と判定表に書きます

開発中

Insight Home Design の強み

説明を読まずに触って分かる「**確かめる道具**」。設計部（発注側）の仕事に合わせて作りました。

1

今の CAD のまま

外注先・他社の CAD で描かれた図面（Jw_cad・DXF・PDF）を、提出のあとに確かめます。作図の道具は替えません

2

図面どうしを突き合わせる

平面図・基礎伏図・伏図・面積表・立面図・矩計図の数値と記号を照合します。外注先から届いた図面で確かめながら作っています（数字は試用で測ります）

3

根拠と「要確認」

指摘ごとに条・項・号と計算過程、是正の目標値（「あと 0.05m 以上」）。推定の値で「適合」と出しません

4

担当者が直せる

機械の指摘も、文・重さ・位置をその場で直せます。不要なら外し、足りなければ図面の上で足します。指摘書に出るのは担当者が確かめた文です

5

外注先の言葉で

画面・指摘書・回答用 Excel・員数表を中国語・ベトナム語でも。訳すのは指摘の文・紙の見出し・画面。会社のチェック項目・法令の名前と条番号・室名は日本語のまま並べます

1 日の流れ ①② 図面を入れたら、指摘の一覧と図面上の位置が出る

届いた図面をドラッグするだけ。指摘を選べば、図面のその場所に飛びます。

ソラ・図面アシスタント 10月15日 (木)

おはようございます。はじめまして。ソラです。
外注先から届いた図面を下欄へドラッグすると、読み取ってチェックし、指摘書まで作ります。

図面は JWW・DXF・PDF に対応しています。操作を試すなら、サンプル案件で練習できます。

図面を選んで始める サンプル案件で練習する

図面をここにドラッグ
JWW・DXF・PDF、ソラが読み取ってチェックします

2 未完了 18 件 うち期限超過 9 該当 18 件 (全 20 件)

未完了 (18) 指摘番号・内容・部屋名

一覧の行を押すか、↑ ↓ キー (F8 / Shift+F8 でも) で前後の指摘へ

- 1 居室の換気 2階 主寝室 再指摘 2026年10月9日
- 2 居室の天井高さ 2階 主寝室 再指摘 2026年10月2日
- 17 アンカーボルトの間隔 S-101 未回答
- 18 柱のそばのアンカーボルト S-101 未回答
- 19 伏図と基礎伏図の柱の食い違い 伏図と基礎伏図の 1階の柱 に・9 未回答

記載漏れの疑い 13 件を表示

A-102_平面図.jww 赤入れ 編集 その他

図面の上で右クリックすると、その場所に指摘を足せます

2階

3

凡例

第3回の図面 8 枚 指摘位置: 指定 0・図面の突き合わせ 3・自動推定 4・図面全体 10・不明 1

指摘 No.2 居室の天井高さ

再指摘 (解消後に再発) 要是正

期限超過

初回指摘: 第1回 / 最後に検出: 第3回 / 経緯: 解消後に再発

指摘内容

天井高さ 2.05m (必要 2.1m 以上・平均高さ)。天井高さを 2.1m 以上にしてください (あと 0.05m)。勾配天井・下がり天井がある場合は室の容積 ÷ 床面積の平均高さで確認してください。

指摘箇所 2階 主寝室

期限 2026年10月2日

指摘の根拠 建築基準法施行令 第21条

図面上の位置 室名から自動推定 (A-102_平面図.jww)

判定に使った数値

天井高さ 2.05 m

① 図面をここにドラッグ

JWW・DXF・PDF。「チェックする」を選び、外注先を入れたら案件ができてチェックまで進みます。依頼図を添えると、依頼どおりか（部屋・帖数・窓）も確かめやす

② 指摘の一覧

要是正・要確認・記載漏れの疑いを印で分け、「未完了 18 件・うち期限超過 9」の 1 行から絞り込めます

③ 選べば図面の場所に飛ぶ

図面に番号の印。右に指摘の中身・根拠の条文・判定に使った数値が出ます

1 日の流れ ③ 指摘は担当者が自由に直せる — 直す・外す・足す

機械の指摘も、そのまま送る必要はありません。直して、外して、足してから指摘書にします。

未回答 要確認・

初回指摘：第1回／最後に検出：第1回／経緯：今回の新規

指摘内容

基礎伏図の同じ立上り（土台）の上で、隣り合うアンカーボルトの間隔が約 3,640mm（図から測った値）あり、間隔 2,700mm 以内という目安を超えています。X5～X6 の間にアンカーボルトを 1 本足して 2,700mm 以内にしてください（あと 940mm）。法令の規定ではない設計・施工の目安なので、不適合ではなく確認をお願いする指摘です（土台は基礎に緊結する。令42条2項）。

Enter で保存・Shift+Enter で改行・Esc でやめる

指摘箇所 S-101

① 直す

指摘内容・項目・指摘箇所・根拠をクリックすると、その場で直せます（Enter で保存・Esc でやめる）。直した文が指摘書に出て、機械の元の文は経緯に残ります

未完了 (9) 指摘番号・内容・部屋名

一覧の行を押すか、↑ ↓ キー（F8 / Shift+F8 でも）で前後の指摘へ

▲ 8	アンカーボルトの間隔	S-101	直した	未回答
▲ 10	伏図と基礎伏図の柱の食い違い	伏図と基礎伏図の1階の柱に・9	未回答	
▲ 9	柱のそばのアンカーボルト	S-101	外した	

指摘から外した 要確認・

初回指摘：第1回／最後に検出：第1回

指摘から外した

外した文は送りません。次の提出で同じ指摘が出て外したままです。

(選ばない)

② 外す

一覧で選んで Delete（か右クリック）。指摘書と回答用 Excel から外れ、次の提出でも外したまま。[指摘に戻す] で戻せます

どれも Ctrl+Z で戻せます。外した数と理由は品質集計に残り、試用では「誤検出の数」としてそのまま使います。

指摘を追加

項目*

人通口の補強

指摘内容（直し方まで）*

人通口の補強の記載がありません。補強の仕様を特記に書いてください。

重要度

要是正

根拠（任意）

図面番号（任意）

S-101

位置（任意）

担当（任意）

期限 YYYY-MM-DD（任意）

やめる OK

③ 足す

図面の上で右クリック → [ここに指摘を追加]。図面番号が入り、印がその点に付きま

1 日の流れ ④ 指摘書を返し、回答を取り込む

指摘書 PDF と回答用の Excel を返し、届いた回答と修正図面を同じ案件に取り込みます。

1

サンプル分譲 2号棟 — C設計室（サンプル）

3

提出 3 回（最終 2026年10月11日 02:55） 未完了の指摘あり

次にやること 期限超過 9 件。指摘を確かめて [指摘書を作る] を押し、外注先へ送ってください

指摘書を作る

その他

指摘一覧

チェックリスト

外注先の回答
修正しました。
2026年9月27日 02:55 C設計室（サンプル）

対応の履歴

第1回 指摘を登録
2026年9月27日 02:55

第1回 回答を記録 C設計室（サンプル）
2026年9月27日 02:55
修正しました。

第2回 解消を記録
2026年10月4日 02:55

第3回 再指摘

外注先の回答を記録

...

2 / 5

3

社内確認リスト

この案件の集計 外注先別の集計 提出の履歴

社内で確かめる指摘です（回答の確認・判定保留・期限超過、社内で確かめること）...は送りません。

No.	状態	項目	図面・位置	外注先の回答	期限
指摘 No.1	再指摘	居室の換気	2階 主寝室	修正しました。	2026年10月9日
指摘 No.2	再指摘	居室の天井高さ	2階 主寝室	修正しました。	2026年10月2日
指摘 No.5	未回答	延焼のおそれのある部分の開口部	—（図面全体）		2026年10月9日
指摘 No.6	未回答	壁量（木造）	—（図面全体）		2026年10月9日
指摘 No.7	未回答	屋根の防火性能	—（図面全体）		2026年10月9日
指摘 No.8	未回答	火気使用室の内装制限	1階 LDK		2026年10月9日
指摘 No.9	未回答	火気使用室の換気設備	1階 LDK		2026年10月9日
指摘 No.10	未回答	居室の床の高さ・防湿	1階 居室の床		2026年10月9日
指摘 No.11	未回答	省エネ基準への適合義務	—（図面全体）		2026年10月9日

① 次にやること

その日にやることを 1 行で。右の主ボタンが段階で替わります（指摘書を作る → 回答を取り込む → 再チェック）

② 指摘ごとに記録

今やることのボタンは 1 つ。再提出で「今回の新規・前回から継続・回答後も残る・解消後に再発」に仕分けます

③ 案件の情報

案件名を押すと、社内確認リスト・この案件の集計・外注先別の集計・提出の履歴

④ 紙の言葉

指摘書・回答用 Excel は日本語・中国語・ベトナム語と対訳から選べます

1 日の流れ ⑤ 基礎伏図・伏図も見る — 図面どうしを突き合わせる

基礎伏図と伏図の記号を読み、**平面図・基礎伏図の柱・耐力壁**と突き合わせます。食い違いは両方の図面に印を付けます。



突き合わせる組

基礎伏図 ⇔ 1 階平面図
柱・通し柱・耐力壁の記号（通り芯で重ねる）

伏図 ⇔ 平面図・基礎伏図
床伏図・小屋伏図の柱（柱の位置で重ねる）

1 階 ⇔ 2 階の平面図
通し柱・階段の位置

矩計図 ⇔ 立面図・断面図・構造
階高・天井高・軒高

面積表・求積図 ⇔ 平面図・表題欄
各階の床面積・建築面積

依頼図 ⇔ 提出図
部屋・帖数・窓・階段・玄関

外注先から届いた図面で 1 件ずつ確かめながら作っています。見落とし・誤検出の数字は、御社の図面での試用で測ります。



① 基礎伏図の指摘

アンカーボルトの間隔・柱のそば・人通口・立上りの厚さ。図から測った値なので「要確認」で出します

② 図面の上の印

基礎伏図（S-101）のその場所に番号の印。右に測った値と目安

③ 伏図の突き合わせ

床伏図・小屋伏図・土台伏図（プレカスト図も）の柱を平面図・基礎伏図と重ねます。通り芯の名前が「い・ろ・は」と「X・Y」で違ってても柱の位置で重ね、食い違いは両方の図面の通り芯（X3・Y8 ⇔ に・9）で示します

間取りプランの下書き — 目標は 6~8 割の出来。画面の上で仕上げる

開発中

会社の型で下書きを作り、**直す所と前提（事実・仮定・要確認）**を図面と判定表に書きます。
条件を満たせないときも、いちばん近い下書きを出し、何を緩めたかを札と見出しに書きます。

画面の名前は「間取りプラン」 ① 敷地と条件 → ② 案を選ぶ → ③ 直す → ④ 書き出す



① 案を選ぶ — 札の色で分かる

緑 = 条件どおり、橙 = 条件を緩めた案（何を緩めたかを見出しに）、赤 = 直してから出す下書き。どれでも選んで直せます。過去のプラン図からも始められます

事実

現況図から読めた値。人が確かめたら「確定」

② 直す — 図面の上で

部屋はダブルクリックで帖数、壁・建具はドラッグ。直す所の一覧を押すとその場所が光り、直すと帖数と判定をその場で作り直します（Ctrl+Z で戻す）

仮定

既定で補った値。図面に「（仮定）」と書きます

③ 書き出す — 1回で4つ

プラン図の PDF と Jw_cad（会社の部品・レイヤ分けのまま）・判定表（Excel）・直しの記録。図枠の欄は現況図から埋め、空の欄だけ入れます

要確認

未確認・未入力の値。依存する判定はすべて要確認

間取りプランの下書きを作るまで — 手元の資料から条件を入れる

開発中

営業の申送り・役所調査・現況図・過去のプラン図を、そのまま貼る・開くだけで条件にします。
読めなかった所は変えずに残し、調べていない所は「未調査」＝判定は要確認にします。

1

営業の申送りから

申送りの文を貼って [申送りから読む]

階数・部屋の数・LDKの広さ・延床・駐車・用途地域などを下の欄に入れます。読めない文は変えません。AIは使いません

2

役所調査の結果から

調べた結果の文を貼って [下書きを作る]

高度地区・地区計画・風致・都市計画区域など、決まった言い方の所だけを拾います。1つずつ見て直せます

3

現況図から敷地を

現況図（.jww）を開く

敷地の辺と方位を読みます。辺ごとに、向こう側が道路・隣地・公園・水路かを選ぶと、斜線と採光の判定に使います

4

過去のプラン図・規格プランから

[過去のプラン図から始める]・規格プラン

以前のプラン図の部屋の配置を、向き・反転を試してこの敷地に置き、直せる案にします。登録した規格プランから敷地に入るものも並べます

操作は製品ページの「操作の動画」（6章・75操作。第5章が間取りプランと規格プラン）で、実際の画面のまま見られます。操作の名前を押すとその場面から始まります。

会社のチェックリストで確かめる — 会社の設定で足す

自動で判定できる項目は先に判定し、担当者が ○△× を付けます。会社の項目は「会社の設定」で足します。

左 = 項目・中 = 自動の結果・右 = 担当者の ○△× (提出ごとに保存。× は「指摘にする」で指摘一覧へ)

☐ 該当の図面が無い項目も出す ☐ 担当者の判定がまだの項目だけ

サンプル住建 設計部 (架空) 外注図面の受け入れチェックリスト (架空) — 平面詳細図

s01 縮尺
各図面に縮尺が書いてあるか

平面詳細図 自動で判定
出典: サンプル住建 図面チェックリスト 第1版 (架空)

○ 自動の判定: 合っています
A-102 (平面図): 縮尺の記載あり
A-201 (1階平面詳細図): 縮尺の記載あり
A-202 (2階平面詳細図): 縮尺の記載あり

s02 方位
平面図に方位 (真北) が書いてあるか

平面詳細図 自動で判定
出典: サンプル住建 図面チェックリスト 第1版 (架空)

記載漏れの疑い (自動では ○ にしません)
次の図面に方位 (N・真北) の記載が見当たりません: A-102 (平面図)・A-201 (1階平面詳細図)・A-202 (2階平面詳細図)。方位記号を記載してください (方位記号が図形だけの場合は目視で確かめてください)。

s03 部屋名・帖数
部屋名と帖数が正しく入っているか

平面詳細図 該当箇所を表示
出典: サンプル住建 図面チェックリスト 第1版 (架空)

拾った箇所 22 件 (探した語: LDK・和室・洋室・帖)

A-102_平面図.jww p1 LDK

A-102_平面図.jww p1 和室

A-102_平面図.jww p1 主寝室 洋室1 洋室2

A-102_平面図.jww p1 洋室1 洋室2

A-201_1階平面詳細図.jww p1 LDK

会社で足したもの

🔗 サンプル住建 設計部 (架空)

配った人: サンプル住建株式会社 設計部 (架空の会社) 版: 2026.10.0

入っているもの チェック項目 2・チェックリスト 6 項目

架空の会社「サンプル住建」の会社パックです。実際の会社の資料は入っていません。自分の会社のパックを作るときの写し元に使ってください。仕様は docs/PACKS.md。

製品に入っている標準

製品と一緒に入る標準です (変更しません。使わないときは管理者向けの表示で外せます)。

🔗 住宅の外注図面 受け入れチェックリスト (標準)

配った人: ハーモニクインサイト合同会社 (HARMONIC insight) 版: 2026.10.0

入っているもの チェックリスト 49 項目

製品に入っている標準のチェックリストです。会社のチェックリストが無くても、外注図面チェックのタブ「チェックリスト」にこの 49 項目が出ます。会社のチェックリストがあれば、会社のもを先に、標準を後に、見出しを分けて並べます。要らなければ画面「会社の設定」の管理者向けの表示で外せます。

① 自動の判定

「合っています」「要確認」「記載漏れの疑い」「判定できない (図面から読み取れない)」。読めないものを合格にしません

② 担当者の ○△×

提出ごとに保存。× は「指摘にする」で指摘一覧へ

③ 出典つき

項目ごとに根拠の法令・公開資料を示します

④ 会社の設定 (会社パック)

標準の 49 項目に、会社のチェックリスト・図枠・規格プラン・プランルール・部品を足します。会社の項目が先に並びます。パックは設計部の資産で、製品には入れません

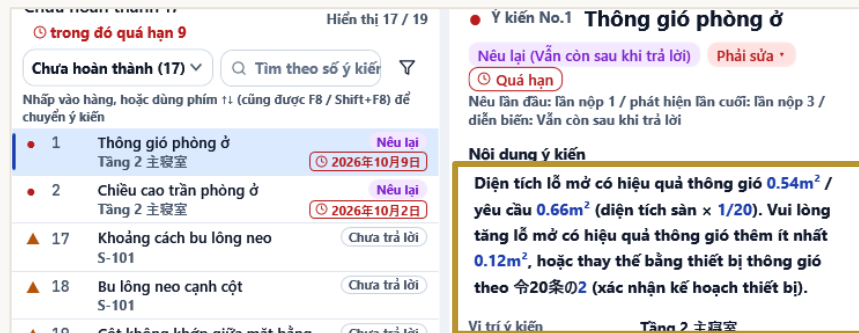
員数表だけ作る入口と、中国語・ベトナム語

図面をホームに落とすと「チェックする」か「員数表だけ作る」かを選べます。
画面と紙は中国語・ベトナム語にも切り替わります。



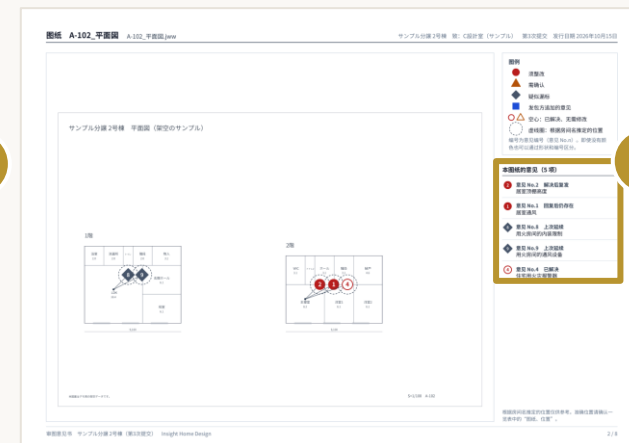
① 員数表だけ作る

案件を作らずに、電気・建具・サッシ・基礎金物の数を Excel と CSV に。記号と区分は図面の凡例どおり（凡例が無ければ JIS の屋内配線用図記号）。数えられなかった記号は数に入れず「要確認」に分けます



② 画面の言葉

右上の言語から 日本語・中文・Tiếng Việt。画面・ヘルプが切り替わります



③ 対訳の指摘書

指摘書・回答用 Excel・員数表をその言葉で。訳すのは指摘の文と紙の見出し。会社のチェック項目・法令の名前と条番号・室名は日本語のまま並べ、外注先と同じ紙で話せます

導入の流れ — 会社パックを作り、4 週間の試用で測る

初回だけ、会社の決まりを「**会社パック**」にします。
そのあと 4 週間、**実務の図面**で効果を**数字**にします。

① 会社パックを作る

初回だけ・HARMONIC insight が作る

- 受け取るもの: チェックリスト・図枠・規格プラン・プランルール・登録部品
- 判定できる規則・名前で引ける部品・図枠の差し込み欄に変えます
- 設計部の共有フォルダに置けば、全員の PC で使えます

② 試用 4 週間

準備に 1 週間・設計部の実務で

- 10～20 現場: 過去にチェック済みの提出 5～8（答え合わせ）＋期間中の新しい提出 5～12（時間を測る）
- 担当者 2～3 名＋窓口 1 名。週 1 回 30 分の振り返り
- 範囲は外注図面のチェック。前半 2 週間は AI を使わず、製品の規則だけで測ります

③ 測って報告する

最終週・報告会

- 検出: 担当者の指摘のうち製品も見つけたもの（製品が判定する範囲で）
- 見落とし・誤検出: 製品だけが出した指摘と、担当者が外した指摘を設計部が判定
- 時間: 1 現場のチェック（見る・指摘書を作る・再提出を確かめる）を従来と比べる
- アンケート 5 問と、最後の報告会

守ること: 図面は設計部の PC と共有フォルダの中。製品は図面を外へ送りません（クラウド・AI のオプションを使うときを除く）。試用中も従来のチェックは省きません。

まとめ

図面を描くのは今の CAD のまま。
確かめて、直させて、記録するのが Insight Home Design です。

1 提出のあとに足すだけ

Jw_cad・DXF・PDF をそのまま読み、作図の手順は変えません

2 根拠つきで指摘し、担当者が仕上げる

条文・計算過程・是正の目標値。
指摘は直す・外す・足すが自由

3 返して、取り込んで、記録する

指摘書・回答・再発・外注先ごとの成績まで 1 つの案件に。中国語・ベトナム語でも

4 間取りプランは前提が見える下書き

目標 6〜8 割の下書きを画面の上で仕上げ、Jw_cad へ

次の一歩 4 週間の試用で、設計部の図面を使って検出・見落とし・時間を測ります。

最終の判断は建築士が行います。 Insight Home Design は確認の道具で、数値と合否は計算して根拠を示します。